

- 1 2018年度 FD・SD合同研修開催
- 2 FDワークショップ開催
- 3 FDシンポジウム開催
- 4 2018年度講師招聘による授業実施
- 5 2018年度甲南大学FD委員会活動報告

発行:甲南大学FD委員会 2019年3月

1 2018年度 FD・SD合同研修開催

～求められる内部質保証とその実践、第3期認証評価の観点から～

講 師：蔦 美和子氏 (公益財団法人 大学基準協会 評価事業部 評価第1課 課長)
2019年2月21日(木) 15時30分～17時 場所：岡本キャンパス 132講義室



認証評価は、学校教育法第109条および学校教育法施行令第40条に定められ、大学の教育研究等の総合的な状況について、認証評価機関による7年(専門職大学院の課程にあつては5年)以内に一度受けるものとされている評価のことをいいます。甲南大学では、2013(平成25)年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審し、その結果、大学基準に適合していると認定されました(認定期間は2021(平成33)年3月31日まで)。このたび、2019年度の自己点検・評価報告書の作成、2020年度の認証評価に向けて、公益財団法人大学基準協会の蔦美和子氏を講師としてお招きし、「第3期認証評価における内部質保証とは」をテーマに研修会を実施いたしました。

ここでは主に、第3期認証評価で重視されるポイント、第2期認証評価との違い、本学における内部質保証体制及び取り組みについてのアドバイス等において、特に重要な点を取り上げます。まず、第2期認証評価との大きな違いは、大学基準1～10において第2期で基準10であった「内部質保証」が、内部質保証を重視するために第3期では基準2に繰り上げられています。「内部質保証とはPDCAサイクル等を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育、学習等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明し証明していく学内の恒常的・継続的プロセスのこと」(大学基準「基準2内部質保証」より抜粋)です。また、基準4では「教育課程・学習成果」としてまとめることにより、大学の教育方針に沿ってどのような教育が実施され、どのような学習成果があったのかを一連の流れにして評価できるようになっています。内部質保証体制

については、本学では第3期認証評価に向けて、すでに全学内部質保証委員会を設置しガイドラインの整備、PDCAサイクル実質化のための仕組みの整備等全学の内部質保証を推進する体制を整えていますが、この内部質保証体制が適切に機能しているかが評価のポイントになります。本学では、それぞれの部局で毎年「活動目標と方針」を作成し、計画策定、計画に基づく活動及び結果検証を行うことによりPDCAサイクルをまわしています。各学部・研究科、部局等がそれぞれの活動を自主・自律的に点検・評価し、改善・向上に取り組み、全学内部質保証委員会が全学の内部質保証体制を統括・運営することで大学全体の内部質保証が機能していきます。また第3期では学習成果がより一層重視されています。測定方法や測定指標を明確にし、その測定結果を教育・研究の改善・向上に活かしていくことが求められています。



以上、今回の講演会の詳細な内容につきましては、以下URLに動画を配信しておりますのでご視聴下さい。

(<https://ssl.konan-u.ac.jp/movie-2018-gakunai-fdsd/> また、DVDの貸出も行います。)

今回の講演会には長坂学長をはじめ教員80名、職員54名が参加しました。教職員が一堂に集まることにより、第3期認証評価受審に向けて認識を共有できました。また認証評価のためだけでなく、つねに見直すことにより学習の充実と学習成果の向上及び学生の満足度の向上と成長につながることも最も大事です。

2 FDワークショップ開催

2019年2月13日(水)

テーマ「百聞は一見に如かず！主体的な学びを促す授業デザインを考えよう！」

講師：共通教育センター 千葉 美保子先生

2019年2月13日(水)にFDワークショップ「百聞は一見に如かず！主体的な学びを促す授業デザインを考えよう！」を開催しました。

5号館にあるアクティブ・ラーニング教室(525教室)を会場とし、教職員28名が参加しました。前半は主にレクチャーパートとして、現在の大学を取り巻く状況から、アクティブ・ラーニングの定義とその導入意義、深い学びを目指すディープ・アクティブラーニングに関して実際の事例を交えながら紹介し、後半は授業デザインの3要素に即した形式でアクティブ・ラーニングの技法について解説を行いながら、実際にWebアンケートを用いたピア・インストラクション、ブレイン・ストーミング(+KJ法)を体験するワークショップ形式で実施しました。

大学のユニバーサル化、知識基盤型社会への移行等を背景に、大学教育は「教育から学習へのパラダイム転換」を迎えています。教員中心ではなく、学習者が中心となって学習を産み出すことが大学教育に求められています。それは質的転換答申(2012)にアクティブ・ラーニングが提唱されることでより明確化してきました。

アクティブ・ラーニングとは何か。本ワークショップでは溝上(2014)の定義を紹介しました。溝上氏は、アクティブ・ラーニングを「一方的な知識伝達型授業を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表する等の活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う」としています。

「外化」とは、書く・話す・発表するなどの活動を通して、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現することを指し、対義語である「内化」とは、読む・聞くなどを通して知識を習得したり、活動(外化)後の振り返りやまとめを通して気づきや理解を得たりすることを指します。

この「内化」と「外化」の往還(内化→外化→内化…)が起こることにより、学びが深まるといわれています(森, 2017)。授業デザインにおいてはこの「内化」と「外化」をいかに組み合わせることが鍵といえます。

では、主体的な学びを促し、学びを深める授業をどのように作っていくのか。インストラクショナルデザイン(=教育設計)においては、学習目標、教育内容、評価方法の3つの要素をバランスよく計画していくことが、授業・研修の目指すべき美しい姿であると指摘されています(鈴木, 2008)。そしてこの3つの要素を明文化したものが、シラバスです。

本ワークショップではインストラクショナルデザインの3つの要素に沿いながら、シラバスの要素について確認しながらより良い授業について考えていきました。まず、到達目標をどのように設定するのか、佐藤編(2015)で紹介されている到達目標の動詞を例示しながら、到達目標を設定する際の注意点について話していただきました。

次に、教育内容として、アクティブ・ラーニングの議論に立ち戻り、講義形式とアクティブ・ラーニング形式のメリット・デメリットを解説しました。教科書の網羅に焦点を当てた一方向型講



義、活動に焦点を合わせた活動ありて学びなしのアクティブ・ラーニングはそれぞれ内化、外化の一方に偏る「双子の過ち(ウィグンズ&マクタイ, 2005)」を避けるために、松下(2015)は内化・外化の双方を深化させるディープ・アクティブラーニング(DAL)を提唱しています。本ワークショップでは、DALの4タイプを事例を交えながら紹介しました。

例えば、分担型DALの一つである反転授業は、授業前に動画化された講義を視聴することで知識を獲得し、授業内でグループワーク等の活動において知識を定着、活用する教育方法です。そのほか、順次型、内包型としてジグソー法、統合型としてPBLについて紹介しました。

さらに、授業内で実施されるアクティブ・ラーニングの技法についての紹介・体験の場を設定しました。今回体験していただいたのは、ピア・インストラクションとグループワークの技法であるブレイン・ストーミング(+KJ法)です。ピア・インストラクションは、学生同士での議論を通じ、単なる知識の記憶ではなく、深い理解をもたらすことを目的とした手法です。今回は、その導入部分の体験として、Webアンケートで複数選択の質問に実際に回答をしていただき、その回答結果をその場で表示しながら、その結果をもとに異なる回答をした同士でのディスカッションを通じて理解を深めていく方法を解説しました。

次に、ブレイン・ストーミング(+KJ法)を行いました。グループワークの技法であるブレイン・ストーミングは、あるテーマ・課題に対して自由にアイデアを出し合う方法です。さらに、ブレイン・ストーミングなどによって得られたアイデアを整理し、問題解決に結びつけていくための方法であるKJ法と合わせて体験を行いました。今回は「なんぼーくんの知名度をUPさせるには」という身近なテーマを題材に3~4人グループで実践していただきました。

最後に、パフォーマンス課題の評価方法の一つであるルーブリックを用いた事例を紹介し、本ワークショップは終了しました。

今回は授業デザインを考える上での重要な要素について体験を通じながら知識を深めていただく内容構成となりました。参加いただいた皆様からのフィードバックも反映しながら、今後は実際の授業デザインを検討するワークショップ等の開催を通じ、本学の授業改善に寄与していきたいと考えています。

共通教育センター 千葉 美保子

3 FDシンポジウム開催

2018年6月20日(水)

～経済学部ベストレクチャー 事例発表～

2018年6月20日、甲南大学FDシンポジウムとして「経済学部ベストレクチャー事例発表」が開催された。前年度の授業改善アンケートに基づきベストレクチャーに選定されたのは、上島康弘教授・大橋祐太職員の「キャリアゼミ」、金俊行講師の「国際経済入門」、市野泰和教授の「中級ミクロ経済学」、森本敦志講師の「労働経済Ⅱ」である。それぞれ担当者が語る授業づくりの工夫や苦心談は大変興味深く、時間が経つのを忘れるほどであった。

大橋祐太職員の「キャリアゼミ」は、「学生ひとりひとりが将来希望する仕事に就くために(今)なにをやるか」という意識が非常に明確である。特に、家族など自分の身近な人に仕事について訊ねるインタビューと、活躍している社会人に対するインタビュー、ジョブ・シャドウイングを段階的に行う手法が興味深かった。知らない人に話を聞いてもリアリティが感じられなかったり、自分には無理だとあきらめがちになる。父親などの仕事を知り、職業生活を身近に感じた上で次の段階に入ること、理解度やモチベーションが違ってくる。

金講師の「国際経済入門」で印象深かったのは、ブログの活用である。同講師は「週間国際経済」というブログを作り、授業と連動させて国際経済の時事的なトピックをわかりやすく解説している。金講師は「ルールブックではなく、ゲームを直接見せよう」と説く。特に社会科学の授業は、方法論をはじめ、現象を理解するためのツールを教えることが多い。だが、これはルールブックを読まされているようなもので、学生は無味乾燥に感じてしまう。ならば面白いゲームを直接見せたほうがよい。この授業でいえば、日々激しく動いている国際経済の現実がそれにあたる。ブログと授業前半部での時事解説、後半部の教科書に基づいた講義が有機的に結びついている。

市野教授の「中級ミクロ経済学」は、本学で先進的な授業開発の

取り組みを続けている同教授だけあって、さまざまな新しい手法が用いられていた。クリッカーを使い、クイズを出題する。学生はスマートフォンでそれに解答する。集計結果が即座にモニターに示される。最新のデバイスを使った授業という、目眩ましのようを感じる方もいるかもしれない。だが同教授は、古典的手法をしっかりと活用し、その経験に立って新しい手法に挑んでいる。配られた資料には、リアクションペーパーの質問例や回答が詳細にまとめられていた。学生の疑問や意見に丁寧に向き合い、それを活かすからこそデバイスが生きてくるのだろう。

最後に森本講師は、「凡て人は皆天才である」という平生夙三郎の言葉を引き、自分の授業は学生がそれぞれの道で力を思う存分発揮するための(考える材料)を提供するものと位置づけた。同講師の授業は32枚程度のスライドを利用して行われる。スライドの重要部分は空欄になっており、授業でその部分が示され、解説が行われる。また問題演習が重視されており、解答は次回の授業で示される。スライドは遠目で見てわかりやすく、陰で大変な労力がそそがれていることが感じられた。

パワーポイントを使った授業、なんらかのツールを使った授業は想像に反して退屈だ、という話をよく聞く。今回のベストレクチャーたちの授業は、道具に溺れることなく、学生の質問や意見をよく聞き、それを分析して工夫するという正道を歩んでいることが印象的だった。ともあれ、ブログ執筆にせよ、リアクションペーパーのとりまとめにせよ、丁寧なスライド作成にせよ、おびただしい時間が準備に費やされていることがひと目でわかり、慄然とした。「ローマは一日にして成らず」、爪の垢を煎じて飲まなければならない。

法学部 尾原 宏之

4 2018年度講師招聘による授業実施

教育学習支援センターでは専任教員が担当する科目の専門性と社会との関係語ってもらうことを目的としてゲストスピーカーを招く講義を実施しています。

学部・センター	科目名	講義担当者	学外講師による講義内容
知能情報学部	Web コンピューティング	灘本明代	Webの最先端ベンチャー企業の方による現在の国内外のWeb業界の技術動向及び仕事の進め方の違いについて
スポーツ・健康科学 教育研究センター	基礎スポーツ 健康科学	鶴木千加子	障がいをもつアスリートとして活躍する選手による日頃の取組みや障がい者とスポーツ活動の実態について
経済学部	現代経済学特論2	筒井義郎	気質効果の専門家による気質効果の問題について
フロンティア サイエンス学部	生化学	臼井健二	企業での実務経験者による機器分析基礎とその応用について
スポーツ・健康科学 教育研究センター	生涯スポーツ論	吉本忠弘	現役の生涯スポーツアスリートによるトレーニングの仕方、時間の作り方について
教職教育センター	教育社会行政論	古川治	夜間中学の教諭による教育行政の現状と課題について
共通教育センター	ベーシック キャリアデザイン	千葉美保子	税理士等のパネルディスカッションによるライフキャリアについて
教職教育センター	教職実践演習(中・高)	藤原健剛 他	現場経験豊かな講師による生徒の能力を引き出す指導について
経営学部	流通システム論	加茂祐子	弁護士・消費生活センター相談員による消費者リスクに対する対応や行政の対応について
知能情報学部	データ構造と アルゴリズムⅡ	渡邊栄治	本学理学部OBによる学業や進路などのアドバイス等について
理工学部	生物学専門実験 及び演習Ⅳ	今井博之 西村いくこ	生物学科卒業生による研究開発や理系出身者が携わる業務の事例等について

5 2018年度甲南大学FD委員会活動報告

2018年度甲南大学FD委員会の主な活動：○新任教員研修会実施(4/3)○経済学部共催FDシンポジウム開催：「経済学部ベストレクチャー事例発表」(6/20)○経済学部市野先生によるワークショップ開催：「授業で学生の回答をすぐに投影できるオーディエンス・レスポンス・システムの活用方法」(7/20)、「オフィス365を利用した動画を反転授業に活用する方法」(7/25)○共通教育センター千葉先生によるFDワークショップ開催：「百聞は一見に如かず！主体的な学びを促す授業デザインを考えよう！」(2/13)○内部質保証委員会共催SD・FD合同研修開催：「求められる内部質保証とその実践、第3期認証評価の観点から」(2/21)○全学共通授業改善アンケート実施及び集計・分析○FD委員会開催：各学部・研究科・センターにおけるFD活動の情報共有及びFD活動のあり方を検討○「FDニュースNo.20」発行、等

《各学部・研究科・センターからの主なFD活動報告》

〈文学部・研究科〉

○授業改善のための取組：2017年度授業改善アンケートに基づく授業の事例発表(7/11)及び学生代表者等との意見交換会(9/12)。授業公開(11/26～12/7)及び授業参観に基づく意見交換会(1/23)。○学生相談室による配慮が必要な学生への対応に関する講演会開催(9/26、12/19)。等

〈理工学部・研究科〉

○授業改善のための取組：物理学科授業参観(6/21)。生物学科授業参観(4/13他全12回)及びFD懇談会(6/21)。授業改善アンケート結果にかかわる機能分子学科FD懇談会(8/7)。理工学部の学修相談・支援についての事例紹介(9/10)。授業改善アンケート結果について学生代表者との意見交換会(9/10)。授業改善アンケート結果にかかわるFD懇談会(物理学専攻8/8 化学専攻8/7 生物学専攻7/21)講義方法についての知能情報学専攻FD委員会(7/24)。安全講習会の実施。等

〈経済学部・経済学専攻〉

○授業改善のための取組：授業改善アンケートに基づくベストレクチャーシンポジウム開催(6/20)。授業改善のための学生との懇談会(9/26)。経済学部FD委員会：経済学部専門科目中級科目の教育内容を共有及び意見交換会(9/5)。等

〈法学部〉

○授業改善のための取組：法学部独自の授業アンケート実施(前期5/28～6/8 後期10/15～10/26)。授業アンケートに基づく授業参観の実施(前期7/11 後期11/30)及び授業参観後の授業方法・内容についての改善、法学部の教育活動全般の向上等についての検討会(前期7/23 後期12/4)。等

〈経営学部・経営学専攻〉

○授業改善のための取組：授業参観(4/27、5/11)及び授業改善検討会開催(5/24)。経営学部生への独自アンケートの実施(6月)及びアンケート集計結果についての議論(10/2)。大学院授業改善アンケートの実施(9月)及びアンケート結果について議論(10/2)○授業改善のための「基礎演習」講義の聴講(前期・後期)○アドバイザーボード部会(8/6)。「ゼミ甲子園」開催。等

〈知能情報学部〉

○授業改善のための取組：授業改善アンケート集計の分析結果に基づく、学生の代表や学外者等との意見交換会(9/20)及び意見交換会の結果についてFD委員会で議論(9/25)。学業不振者への特別指導検討会(4/24)。カリキュラムに関する検討会。等

〈マネジメント創造学部〉

○授業改善のための取組：授業改善アンケートに基づく学生との

意見交換会(9/18)。授業改善のためのFD研修会(9/19)。全学FD委員会からのフィードバック及びFD活動に関する学部FD委員会(7/4)。○FD Lunch meeting:教育方法の改善及び配慮が必要な学生の対応について(6/26)。等

〈フロンティアサイエンス学部・研究科〉

○授業改善のための取組：ベストレクチャー選定(前期・後期)、ベストレクチャー選定による授業参観(T-Learning)(前期6/26 後期10/3)及び授業改善検討会(ベストレクチャー研修会)(前期7/9 後期10/15)。授業改善アンケートにかかる学生代表とのFDミーティング(9/11)及び報告会(9/20)。等

〈国際言語文化センター〉

○授業改善のための取組：授業公開(5/1～6/29 10/1～11/30)。授業改善アンケート結果に基づく意見交換会(7/11)。言語教授法・カリキュラム開発研究会(6/16 2/1)。カリキュラムポリシーの共有等のために非常勤講師を含む外国語教育担当者会議開催。等

〈教職教育センター〉

○授業改善のための取組：2017年度後期授業改善アンケート結果及び2018年度前期授業改善アンケートの自由記述について履修学生からの反応や成果及び課題解決のための工夫についての意見交換会(前期7/23 後期12/17)。等

〈スポーツ・健康科学教育研究センター〉

○授業改善のための意見交換会：授業改善アンケート結果に基づきテーマを設定した授業改善のための意見交換会及び2018年度スポーツ・健康科学研究会開催(9/20)○基礎体育学演習「健康リテラシー」講義受講。○ゴルフ及びスキー実習のための指導講習会実施。等

〈共通教育センター〉

○授業改善のための共通基礎演習にかかわる授業改善アンケートの分析及び検討会(9/25、12/11)。共通基礎演習の期中アンケート実施(11/12～12/7)及び改善検討会(12/11)。○カリキュラム委員会開催(4/10他全10回)。共通基礎演習クラスの「自己探求プログラム」の実施に関する検討(7/3)。等

〈法科大学院〉

○授業改善のための取組：授業参観の実施(前期6/11～6/23 後期11/20～12/3)及び参観報告書の作成・意見交換会の実施。科目別授業アンケートの実施(前期5/28～6/2 5/7～5/12 7/2～7/7後期12/4～12/10)及び授業改善アンケートに基づく意見交換会(9/18)。認証評価結果によるFD活動について法科大学院教務・FD委員会で継続的に検討。等

さらに詳しい情報・報告はホームページへ！

大学トップ ▶ センター・研究所・図書館 ▶ FD－甲南大学のFDへの取り組み－

問い合わせ先

FD委員会ではFD活動やFDニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。

教育学習支援センター事務室 TEL078-435-2592(内線2812) MAIL lucks@adm.konan-u.ac.jp